

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会
都道府県 鳥取県
対象地域 鳥取県全域
対象品目 ナシ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付してください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

有機質肥料のみを施用する全量有機質肥料施肥体系により、化学肥料を使用しない梨栽培を目指す。

現在の栽培体系

●:基肥散布(化成肥料) ▲:春肥散布 ◆:芽出し肥散布(化成肥料) ■:礼肥散布(化成肥料) ◆:収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	◆	◆			◆	◆	■	●	●			▲	基肥：化成肥料7-4-4 有機質肥料6-8-3 春肥：有機質肥料4.5-4.6-1.9 芽出し肥：化成肥料15-14-9 有機質肥料6-8-3 礼肥：化成肥料15-14-9
技術名													

グリーンな栽培体系

▲:春肥散布 ◆:芽出し肥散布(化成肥料) ■:礼肥散布(化成肥料) ◆:収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名					◆	◆	■					▲	春肥：有機質肥料7.2-4-2.5 芽出し肥：有機質肥料7.2-4-2.5 礼肥：有機質肥料7.2-4-2.5
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6 (R5年作付面積)	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	652	652	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.05	80	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	—	—	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	—	—	

取り入れる技術に応じて取組面積の目標等が異なる場合は、
行を追加する等で分かるように記載してください。

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学肥料施肥	▶ 全量有機質肥料施肥	化学肥料の使用量の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学肥料の使用量（kg/10a）	70	▶ 0	
			▶	
			▶	
			▶	

＊環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

＊化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

指標は、以下のとおり設定してください。

- 化学農薬の使用量の低減の場合：使用回数、成分数、使用量、ADIなど
- 化学肥料の使用量の低減の場合：使用量、NPK成分量など
- 省力化に資する技術の場合：作業時間、作業人員、作業工程数など
- 有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの排出削減：省略可（設定した場合も、フォローアップの対象とするかどうかは任意とします）
- 化学農薬の使用量低減、化学肥料の使用量低減の場合も、技術の特性上設定が困難な場合は都道府県知事が認めれば省略可

関係者名	鳥取県 経営支援課農業普及推進室 鳥取県 園芸試験場 鳥取県 各農業改良普及所	JA等	鳥取県生産振興課	
役割	技術指導（JA等と随時連携）	技術指導（普及所等と随時連携）	事務手続き等	

その他